

「みんな同じ命だから」エピソード②

おおがけ

大掛家のはなとムギ（庄原市川北町）

犬や猫のペットを家族の一ただく。

員として、最後まで面倒をみてあげてほしい、そんな願いをこめて大谷京子さんは「みんな同じ命だから」という写真展を開いている。前回に続いてその写真展から、印象的なエピソードを紹介させてい



た。犬の方から近づいてきて、菊美さんの顔をペロペロ、人懐っこい犬ではなかったので職員の方が驚いた。わたしを選んでもくれたのだと、菊美さんは思った。

大掛家には、先住のムギがいた。菊美さんの実家に住み着いた野良の子猫をもらってきた。ムギが毛を逆立てて威嚇しても、はなは素知らぬ顔でおとなしくしていた。しばらくするとはなを家族の一員として認めたのか、ムギははなのそばを通りかかると近づいて、挨拶するようになった。

はなはフィラリアに感染していた。蚊から感染する寄生虫で、幼虫が血管を通過して心臓や肺動脈に到達、棲みついて成虫になる。感染してもすぐには症状が出ることはなく、多くは数年後に発症。運動をしたあとでもないのにハーハーと息が荒い、ときどき咳をする等々。症状が出たときはすでに重症というケースが多く、はなは咳をしていた。

当時、看護師として働いていた菊美さんは勤務時間が不規則で、きまった時間に餌やりや散歩に連れて行くことができない。夫の秀秋さんがはなの面倒をみることも多く、秀秋さんが仕事から帰って来る三十分も前から、はなは道の方を見ている。秀秋さんの車が見えたら大騒ぎで、帰宅した秀秋さんに飛びついて喜んだ。

「わたしよりも、すっかり主人になつちやうて」と菊美さん。雷に驚いたはなが逃げ込んだのは、秀秋さんの部屋だったという。

安住の場所を得たはなだったが、フィラリアの治療中におなかに大きな腫瘍が見つかった。肝臓や腎臓も悪く、余命一カ月の診断。しかし、それから七カ月生き抜いた。

はなが立ちあがることができなくなると、褥瘡ができていようと、夫妻で協力して体位変換を日に三度。看護師の菊美さんの判断だった。暑くなってくると、扇風機の風をあててあげた。ムギが心配そうに、はなの様子を見守っていた。

はなの享年は推定で十一歳、大掛家に来てから一年八カ月、闘病生活が長かったが、はなは幸せであったに違いない。はながわたしを、大掛の家族を選んでくれたことを、菊美さんは感謝している。

「飼うには責任と覚悟がいりますが、飼わない勇氣も必要だと思わんてす」

大谷さんは愛犬のきなこと暮らしている。迷い犬を保護した犬だ。自分の年齢を考えると、犬を飼うのはこれが最後だと覚悟している。

大谷さんの知り合いに、八十年代半ばの高齢の女性がいます。飼っていた犬が死んでしまい、独り暮らしなので寂しくて仕方がない。それで、周囲の反対を押し切って、新しい犬を飼いはじめた。しかし、体調を崩して介護施設に入所、犬の面倒をみることができなくなりました。その犬の落ち着き先は、まだ決まっていなかった。

ペットの命運は飼主が握っている。高齢の女性がその犬を飼わなければ、違う家での生活が待っていたはずで、今でも幸せに暮らしていたかもしれない。

私事だが、記者の家でも猫を飼っている。野良猫を安易に餌付けしてしまい、妊娠して出産。三匹の子猫は近所の愛猫家に引き取られ、母猫は避妊手術を経てわが家の二階にいる。

今回の記事を書いて、飼主も成長しなければならぬのだと強く思った。家族の一員として、最後まで面倒をみる。そうすれば、保護施設に収容される犬や猫はいなくなるのだから。

## 図書館員ノート ⑫

# 「タイムマシン、あるいはSF的な」

「タイムマシンがあるなら…」と、みなさんはその先を想像したことはないだろうか。

私は、ある。

もしもタイムマシンがあるなら、子どもの時の自分に会って今の職業を教えてあげたい。なぜなら子どもの時の私は、正直に言って全



然本を読んでいなかった。本を読むよりも友達と鬼ごっこやサッカーなど、外で遊ぶことが大好きな子どもであった。

そんな私が今は、図書館司書として本に囲まれ仕事をしている。時には、利用者の方にお勧めの本を紹介したりもする。子どもの私にその姿を伝えたら、どんなに驚くことだろう。そして「なんで本を読むようになったの?」と聞いてくるに違いない。

今でも覚えている、私に本を読むきっかけを与えてくれたのは、あの一冊の本であった。高校生の夏休みの宿題で選んだ本だ。タイトルに惹かれて選んだのを覚えている。

本のポリウムは当時の私からしたらとても分厚かった。しかし、次々と気になる展開、ハラハラドキドキする話にページをめくる手が止まらなかった。

それを読み終えてからの私は、本

の虜だ。次に次にと読書を途切れなく楽しんでいった。そして、本を読むにつれ司書という仕事に興味をもつようになっていった。そんな、たった一冊の本から始まった読書が、今の職業の原点になっている。

今では、昔の自分にいろいろな本をお勧めしたいくらい、それなりに本のレパートリーが増えた。しかし、それこそタイムマシンがない限り昔の自分に本を薦めることはできない。

ただタイムマシンがなくなると、今の子どもたちに本を紹介することはできない。

一人でも多くの子どもたちに、お気に入りの一冊を見つけてくれる手助けができればと思いつつ、私は今日も仕事をしている。

さてタイムマシンはいつできるのだろうか。

それにしても最近、いささかSF小説を読みすぎたようだ。

次はファンタジー小説を読もうかな…。

# 莫言『豊乳肥臀』

## ——乾いた目で描いた中国現代史

タイトルからして人を食っています。日本語に訳すと「豊かな乳、大きなお尻」。12年にノーベル文学賞を受けた中国人作家莫言の代表作『豊乳肥臀（上下巻）』（平凡社刊）のことです。タイトルは、グラマーな女性を指すらしい。

それにしても激動する同じ中国を描いてノーベル文学賞を得た2つの作品の趣向がこうもかけ離れているとは。1つは前号（第16号）で紹介したサクセスストーリーの『大地』、もう1つはこの『豊乳肥臀』。前者は清末から辛亥革命で新しい国づくりに向かう20世紀のはじめまで。後者はその直後、「第一章 日本鬼子（リーベングエイズ）がやってきた」に始まる、日本軍、軍閥、国軍、共産軍が入り乱れての内戦、それが終わると共産中国、文化大革命、開放経済の狂騒の渦、まさに中国の現代史です。浮沈に富んだ世相が描き出されています。

恋や駆け落ち、村内のいさかい、内戦で右往左往の避難など、農民の動きにも目配りが効いています。

そこには、次々に巡り来る“新しい時代”の内実への批判と風刺・諧謔が底流になっています。それ故に

代に巻き込まれて織りなす有為転変です。上官魯氏が主人公の立場ですが、舞台回しといった感じです。

例えば、長女の夫は国軍協力軍指令、次女は抗日別動大隊指令の第三夫人、三女は巫女、四女は遊女屋に身売り、五女の夫は共産軍のリー

富んだ表現が至るところに顔を出し、手放せなくなります。なんといても「白髪三千丈」の誇張表現の国柄です。上官魯氏がカツと興奮した様子を伝えるのは、「盛り上がった筋肉のひと筋ひと筋が、あたかも鞘（さや）から出た牛の陰茎のようだ。……汗が背中を濡らし、乳房の谷を川となって流れる」となるのです。

読後感は、中国の現代史のめまぐるしい転変に、改めて気づかされます。それは、「奢れるもの久しからず」といった、日本的な無常観にひたってもおれないほどの過酷さです。

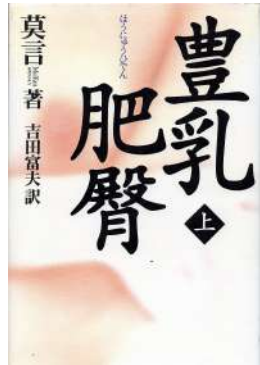
莫言に先んじてノーベル平和賞を受けた、体制批判の人権活動家劉曉波はこの7月に獄死に近い状態で亡くなりました。「体制批判は許さない」と言わんばかりの中国政府の処遇を見るにつけ、作家莫言の批判精神を秘めた、文学的なたくましさに感嘆します。

また、教養小説、大河小説が人気を博した前世紀の20世紀前半に比べて、“希望迷走”といえそうな現代の小説との違いも考えさせられます。現代史の裂け目に投げ込まれたような、軽いめまいに見舞われる小説です。

### また読んでみたい本①7

#### 青年たちに

音谷 健郎



【豊乳肥臀 表紙】

古今東西の文学にはたくさんの名作があります。そんな名作の中から筆者の心に残る作品を今の青年たちにも読んでもらいたいと思います。毎月1冊ずつ紹介しています。

第17回は、莫言の『豊乳肥臀』です。もし興味を持ったらぜひ読んでみてください。

筆者紹介：1944年、旧・庄原町生まれ。新聞記者、大学講師を経て現在、庄原市東本町在住。大阪文学学校講師

カムフラージュのためか、一筋縄ではいかなない小説技法が目立ちます。

粗筋は、鍛冶屋の上官家に嫁いだ魯氏が8人の女の子をなします。未っ子がやっとな望の男の子でした。この女たちが美貌と豊かな胸に恵まれ、何人かは衆に優れた伴侶と共に、時

ダー、六女は米軍人と結婚……と多彩です。彼女たちが見舞われる浮沈。押し寄せる毛沢東の大躍進政策、文化大革命や下放の実情のひどさに魯氏は苦渋をなめさせられます。

試しに、この小説を手にとってみてください。ちょっと野卑で誇張に

虫と草木と人びとと⑤ 中村慎吾

## 「湯川仁さんのこと」前編

著者紹介…一九三一年、比婆郡（現・庄原市）比和町に生まれる。農学博士（九州大学）。昆虫や動植物などの自然科学、郷土史や民俗学を含めた博物学の研究者で、著書は多岐にわたる。

※中村さんの回想録的なコンセプトで編纂された「虫と草木と人びと」（シンセイアート出版）から、著者の許可を得て、その一部を抜粋、転載しています。

比和町立自然科学博物館（現・庄原市立比和自然科学博物館）は、「もぐら博物館」の愛称で人びとにしまれている。「もぐら博物館」という愛称は、博物館に收藏されているモグラ類の豊富なコレクションに

よるもので、モグラ類の標本数は国立科学博物館と比べて勝るとも劣らないものがある。この豊富なモグラ類の標本をつくり、今に残してくるのは湯川仁さんである。湯川さんは生前、せっせとモグラ類の採集に



湯川 仁さん

（1975年頃、比和町中央公民館に間借りしていた頃の博物館で）

努めていたので、誰いうことなく「もぐらの仁さん」と親しみを込めて呼んでいて、本当の呼び名は「仁」であるのに、仁さんと呼ぶ人は少なかつた。

比和町立自然科学博物館（これからは博物館と略していう）を訪れた方のなかで、畑や田ん圃がモグラによって被害を受けて困っている方から「この博物館には大変な数のモグラの標本があるが、何かモグラの捕獲についてよい方法でもあるのでしょうか。畑などを荒されて困るので、ぜひ、モグラの捕獲法を教えてくださいませんか」と尋ねられることがある。それに対して「モグラのトンネルのうち、どれがそのモグラのよく利用している主要なトンネルなのか、調べ、そこへワナをかけると捕えられます」と答えると、「主要道はどのような見分けるのですか」と再び問いが返ってくる。そのとき、

わたしは返答に行きづまり、「この標本を残した湯川さんは独特の坎で見分け、仕掛けたところからほとんど百発百中、捕獲していて、私には見分けるコツはわかりません」と逃げる以外ないありさまである。湯川さんはモグラにしる、野ねずみにしる、野生動物の採集は巧みで独特の坎をもっていた。もちろん、独特の坎の持主であると共に動物好きで、動物の習性や行動を熟知していた。

湯川さんは子どもの頃から動物好きであったが、それは父親の影響と思われる。父の藤原喜市さんは比和町古頃で農業を営み、冬、猟をすることを唯一の楽しみにしていたが、末っ子（五男）の仁さんをことのほか愛がり、仁さんが物心ついてからはいつも猟に連れて出ていたという。生来の動物好きに加えて父親の猟に同行するという中から、彼の独

特のカンが育ったものと思われる。古頃は比和町内でも草深い田舎である。そのような自然環境の中で生まれ、育った彼だから持ち得たもので、その独特のカンは他の追隨を許さないものだったと考えている。

湯川仁さんは一九三二年（昭和七年）六月三日、比和町古頃で藤原喜市さんとカツノさんを両親としてその五男として生まれた。湯川さんは生まれたときは「藤原仁」、一九六四年（昭和三九年）三月、隣の高野町新市の湯川家へ養子に行かれ、改姓されたわけである。一九六四年は新市で四メートルもの積雪があった「三八豪雪」の明くる年であり、当時、私は高野町立上高等学校に勤務していた。話が脇にそれたから元に戻そう。湯川さんは古頃小学校を一九四六年（昭和二十一年）に卒業すると、比和小学校高等科へ進んだ。そして、高等科二年を卒業したとき、学制改革で新たに生まれた比和中学校の三年に編入され、一九四九年（昭和二十四年）三月、比和中学校を卒業し、その年の四月、庄原実業高等学校農業科へ入学された。

終戦後の男の子の楽しみのひとつにゴム鉄砲を作り、小石を弾にして鳥撃ちすることがあった。父の狩猟

についていき、猟の世界を体験している湯川さんもゴム鉄砲で小鳥を撃つことを楽しんでいた。当時は今とは比較にならない程、小鳥たちも多く、自由に小鳥が撃てるおらかな時代だった。そのような中で、彼のゴム鉄砲で小鳥を仕止める腕前は誰

にも引けを取らなかった。高校に進学してからは鳥を撃つだけでなく鳥類の観察にも精出し、その成果は高校を卒業する一九五三年（昭和二十八年）に「比婆郡の鳥類とその生態（一）（二）」にまとめ、比婆科学二九号と三十号に発表した。この

## 庄原市立比和自然科学博物館 特別展

# 「広島県のチョウ その多様性と現状」

愛好家からゼフィリスと呼ばれているチョウがいる。ギリシャ神話に登場する西風の神を意味し、ミドリシジミの仲間である宝石のように美しい。日本には二十五種のゼフィリスが分布しているが、県内では

二十三種が記録されている。比和自然科学博物館にこれらの標本を寄贈したのは、「広島県虫の会」の会員で呉市在住の蝶類研究者、岸本修さん。県外で採取したチョウも合わせて五科百八十七種、一万五

千九百九十六個体。その膨大で貴重な岸本コレクションの中から、県内で観察できるチョウの標本約四千点が館内で特別展示されている。

県内ではすでに絶滅してしまったチョウの標本もある。同館の中村慎吾名誉館長が一九六〇年に高野町で採取したオオウ

ラギンヒョウモンは、以降の目撃情報がない。雌の一個体だけでなく、なんだか寂しそうだ。ムモンアカシジミは雌雄合わせて四個体が展示されているが、採取場所は岩手県である。

広島県で確認されたチョウは百三十二種で、中国五県ではもっとも多く、蝶類層の豊かな県である。しかし、環境の変化や悪化で絶滅を危惧されている種が増えている。これらの貴重なチョウを守るためには、その存在を知ってもらうことが第一歩。保護活動の啓蒙も今回の特別展の目的である。



特別展の開催期間は7月21日から11月26日まで。午前9時～午後5時。三百円（中学生以下無料）の入館料で特別展も鑑賞できる。

☎0824(85)3005

小児喘息だったので、体育の水泳の時間はいつも見学していた。あのときも、小学校のプール開きではしゃいでいる同級生たちをしょんぼり眺めていた。

「久太郎くんは、どうして泳がないの？」

隣で見学している同級生に声をかけた。転校生で、まだほとんど話をしたことはなかった。喘息の発作がひどくてしばらく学校を休んでいたときに転校してきたらしい。

久太郎は空を見上げて考えている。日焼けした顔はとても健康そうだった。

「泳げないの？」

意地悪な質問をした。久太郎はぶるぶると首を振った。ときどき給食の残りをやっている野良猫のシロの動作に似ている。

「わかった、水泳パンツを忘れたんだ。ぼくがあるから、貸してあげよう」

ランドセルの中の水着は、ずっと新品のままだった。

「そんなもの、いらね」

ぼそりと彼がいった。裸でプールサイドを駆け回っている姿を想像してしまった。何年か前に、母親と行った銭湯のことを思い出した。家の風

呂が壊れたので、しばらく銭湯に通った。女湯で同級生の女の子に会ってしまい、恥ずかしい思いをした。

「でも、ありがと」

白い歯を見せて笑った。目が皺のように細くなって、やっぱりシロに似ていると思った。

夏休みに入っていた。同級生たち

(泳ぐわけじゃないんだから)

自分に言い訳して、靴と靴下を脱いだ。裸足になって水の中に入ると、火照った肌がひんやりして気持ちいい。誰かが、水をすくって放り投げた。それを避けようとしてバランスを崩した。苔で足がすべって、水の中に体が沈んだ。

パニックになって、手足をばたつ

くなった。

(力を抜くんだ)

声に従った。水の中を流されているのがわかった。川底の苔むした石や、泳いでいる魚まではつきり見える。きれいだった。ここは天国？このまま死ぬんだとそのとき思った。

(泳げるよ)

声が聞こえた。

(蛙になったつもりで、手足を動かして)

あきふゆひこ

## 「河童の久太郎」

亜木冬彦

現代御伽草子 ①6

※県北の歴史や風物を題材としたファンタジー小説です。

に誘われて、西城川の河原で釣りをしていた。天ぷらにするとうまい鮠

かせた。ゴボゴボと水をのみ込んだ。息苦しくて、さらに暴れた。

(大丈夫)

りだった。声が聞こえた。聞き覚えのある声だ。

(久太郎くん?)

あの笑顔が浮かんだ。

(大丈夫)

また声が聞こえた。息苦しさがな

だ) 流れに逆らって、体が前に進んだ。馴れてくると、自在に水の中を移動できるようになった。

(やった! うまいぞ!) 歓声と共に、大きな影が旋回しながら、猛烈なスピードで目の前を通り過ぎた。まるで踊り跳ねる魚雷である。

気が付いたら、全身から水をしたたらせて河原に立っていた。同級生たちが駆け寄って来る。

「おまえ、泳ぎ、うまいんじゃない」



「最初は溺れたかと焦ったけど。まるで河童みたいじゃったぞ」

そう言っつて肩をたたかれた。

自分の両手を見た。ハツとして手のひらを太陽にかざした。それは、確かに水かきだった。しかし、指の間の透明な膜は、太陽の炎に溶かされるようにすぐに消えた。

「ゴリや、大漁じゃな」

半ズボンのポケットから、鮠が何匹も出てきた。

夏休みが終わって学校に行っても、教室に久太郎の姿はなかった。また転校したのだろうか。不思議な

ことに、同級生に久太郎のことを尋ねても、怪訝な顔をされるだけで、誰も彼のことを覚えていないのだった。

翌年の夏、主治医の許可が出て、体育の水泳の授業に初めて参加した。準備体操をしたあとで、スタート台の上に立った。まだ、あのときの水流を切つて泳ぐ感覚が残っている。銭湯で裸を見た女の子の視線を意識しながら跳躍した。

したたかに水面で腹を打って、しこたま消毒臭い水を飲んだ。あやうく溺れそうになりながらも、ジタバタとプールサイドに這い上がった。笑い声が聞こえてきた。

「久太郎くん……」

呼びかけても、返事はなかった。

(ゴミをすてないで、か)

河童の絵が描いてある看板の文字が目に入った。

(じゃあ、生ゴミを捨てるわけにはいかないな)

自嘲してつぶやいた。採用試験を落ちるたびに、自分が無用のゴミになったような気にさせられた。自分という人間を、今まで歩んできた人生を、すべて否定されたような気がした。

河原に降りた。水辺に立って、水面を眺めた。

「久太郎くん……」

呼びかけてみる。このまま水の中に入って行きたい衝動を覚えた。溺れたら、また助けしてくれるだろうか。携帯電話の呼び出し音が鳴っている。

「ああ、もう墓参りは終わったよ。あまり良い報告はできなかったけどね」

自虐が癖になってしまっている。

(大丈夫)

優しい声が耳に届いた。

(おとうさんは真面目過ぎるのよ。考えすぎなの。肩の力を抜いて、リラックスして……)

うんうんと頷いた。

(大丈夫、なんとかなるから。あたしもパート、頑張るから)

目の前の水面を大きな影がよぎった。水中から光の塊が飛び出してきた。それが魚の形になって、河原の石の上を跳ねている。立派な鮎が三匹。

(あなた、どうしたの?)

心配した声が聞こえた。

「お中元をもらったよ。小学生のときからの友達なんだ」

声が弾んでいる。

## まちの古本屋さん どら書房

古書探索の旅に、お気軽にお立ち寄りください。

- ・ 無料本、百円本、50円本などのコーナー。無料の漫画ルームもあります。
  - ・ 地元のポストカード、新鮮野菜の店頭無人販売もやっています。
- ※九日市の開催日は定休日でも開店します。

- 庄原市中本町 2-1-10
- 定休日：毎週月・火曜日
- 営業時間：9:30~19:00
- TEL: 090(9913)3052

※広島銀行庄原支店の手前(三次側から)※交差点角のまちなか駐車場が使用できます。

< 広告料 1/4 ページ 1回 2,000円 半年間 9,000円 1年間 1,5000円 >



どら書房の店主が毎月オススメ本を3冊選んでご紹介します。

### 「症例A」

多島斗志之 著 角川書店

DID、解離性同一性障害を題材にした小説。舞台はとある精神病院、新任医師の榊は垂左美という17歳の美少女の担当になる。前任者の沢村医師は、病院の屋上から謎の転落死を遂げている。

榊の診療シーンがリアルで迫力がある。病んだ精神という底なし沼に、徒手空拳で挑んでいるような榊の正義感が痛々しい。一歩間違えば、自らもブラックホールに引きずりこまれてしまう。辛くなって、何度も読むのを中断した。

サスペンスの縦軸として、博物館の贋作疑惑が描かれているのだが、その部分になると狂気の世界から日常生活に戻れたようで、ホッとしている自分がある。



### 「骨壺の底にゆられて」

江宮隆之 著 河出書房

「歌人山崎方代の生涯」の副題。「ふるさとの右左口郷は骨壺の底にゆられてわがかえる村」が元首。右左口(うばぐち)村は、甲州(山梨県)の山村で山崎方代の故郷。生まれ育った土地への郷愁が心に響く。

学歴もなく、短歌はほとんど独学。戦地で目を負傷、極度の弱視でまともな仕事につくことができずに、歯科医に嫁いだ姉の世話になりながら、自身のことを飄々と歌に詠んだ。会ったこともない歌仲間の女性に恋をして、和歌山にいるその女性に会うためにぶらりと放浪の旅に出る。フーテンの寅さんのようなエピソードが満載。作者の人柄そのままに、方代さんの短歌は朴訥に心に入り込んでくるのです。



### 「木喰」

立松和平 著 小学館

「みな人の心を丸くまんまるにどこもかしこも丸くまん丸」、溢れんばかりの笑顔の仏像を数多く残した木喰行道上人の物語。上人の木喰戒とは、米・麦・粟・黍(キビ)・豆の五穀絶ちをし、火にかけた食物、すなわち火食をとらないというもの。もちろん殺生である肉食は論外。食欲や貪欲などの煩惱滅却の修行である。

黒染めの鼠衣に身をつつみ、野生の竹の実を食べて命をつなぎ、御仏に導かれるままに漂泊して仏像を彫る。物欲や我欲を捨てれば捨てるほど、心は豊かに満ち足りてくる。語り部は、上人に寄生するのみとしらみのコンビ。物と情報の洪水にアップアップの現代人とは対極にあるファンタジー。読めば笑顔になれる。



## どら書房 << 貸本屋システム >>

- ・ 店内で販売した本は、どら紙幣(店内専用通貨)であれば半額、現金であれば3割で買戻します。※破損や汚れがあれば値引
- ・ 書籍購入⇒読了⇒どら紙幣と交換⇒新たな書籍購入、貸本のような感覚でご利用ください。

## どろろくろ俳壇

※投句を歓迎します。

座禅組み鉄となりたる雨蛙

近藤 昌平

鮎の川二つに別つ分水嶺

原博己

奔放にゴーヤーの蔓空へ延び

片岡 正人

北の果て霧の晴れ間や樺太か

隆愚

古里や河童となりし夏休み

赤川 冬人

## 投稿&寄稿

「押し葉百二年を土笛に」

富久光

何かとお世話になっている、八谷文策氏から祖父正義氏の明治45年〜大正7年までの日記帳を見せて戴いたことがある。文策氏の祖父は、北海道大学教授だった。明治45年11月7日、8日は空白となっており、一枚のカエデの押し葉が挟んであるのを偶然に見つけた。

早速、山と溪谷社の『葉っぱの博物館』で調べた。押し葉は百二年を経て茶褐色に変色していたが、葉脈も主脈、側脈、鋸歯もはっきり残っ

ている。ウチワカエデだと判断した。百二年間密閉された状態で、奇跡的に残ったのであろう。

頁を開いて感動の極みにあるとき、葉の先端が急な外気に触れて反り、もろくも欠け落ちた。全体がもろく、透けている部分もあった。申し訳ない気持もあったが、急いでセロテープで補修した。デジカメで写真を撮った。

このままでは、ぼろぼろに碎けてしまう、考えた末、補修した葉っぱ

## 「蟻の話」

M・A

外来種のヒアリが上陸、猛毒を持つていて、咬まれると火傷のあとのように腫れるから火蟻と呼ばれている、らしい。

ヒアリではないが、わが家にも先日、蟻が侵入、在来の小さくて黒い蟻だ。台所のキッチンテーブルの上でウロチョロ。次第に仲間を増やして我が物顔（たぶん）で往来するようになった。みんな「土足」である。堪忍袋の緒が切れて、衝動的に手のひらでバンバン叩き潰した。まだも

そのままを粘土に写し取り土笛を作ることにした。粘土を薄く板状に延ばし取り敢えず、慎重に作れるだけの型取りをした、十一個分が出来た。先端の欠けた部分は、写真を参考に修復した。

百二年前の押し葉の土笛、此の感動は生涯忘れることはないだろう。気のせいかな音色は低音、百二年の歳月が重く籠もっているように感じられた。

文策氏には事後承諾して貰った。それくらい急を要したのである。

がいている瀕死の蟻を見て、さすがに気が滅入った。以前使った蟻用の殺虫剤を買ってこようと思った。蟻の餌に殺虫成分が入っていて、蟻がその餌を巣に運ぶことでコロニーが全滅する。何年か前に使用して、中庭の蟻が一時期、消失した。

しかし、蟻は台所から消えて、今度は居間のちゃぶ台の上に出現。心を鬼にして、またバンバンと大量虐殺。だけど、その翌日もちゃぶ台でウロチョロ。キッチンテーブルとの違いは何だろう？ これから食事をするので、ちゃぶ台の上を濡れた布巾できれいに拭いたことを思いだした。それで、蟻のダイイング・メッセージ（フェロモン？）を消してしまったか。

今度は蟻を叩き潰したあとで、その死骸を取り除いただけにした。翌日から、家の中で蟻の姿を見ることがなくなつた。家の中は危険だということを学習してくれたのだろう。中庭の巣は助かったのだ。

あとでヒアリのことをネットで調べてみたら、拡散防止の防波堤として、在来種の蟻が有用だという記事を読んだ。わが家の蟻も、ヒアリが来たら戦ってくれるだろうか。虫が良すぎるか（苦笑）。

# どらくろお 掲示板

地域のイベント情報やメンバー募集など  
情報掲示板です。

- 一 硬式テニス参加者募集 一
- MTEC (Miyoshi Tennis Enjoy Club)
- 場所：三次運動公園の屋内&屋外コート
- ・火曜日 (9:30 ~ 12:00)
- ・水曜日 (9:30 ~ 12:00)
- ・土曜日 (12:00 ~ 14:00)
- 連絡先：中川 (☎080-5610-2376)

## 陶芸 教室

### 洲澤陶芸教室 (電動ロクロほか成形全般)

- ・ 県大前教室 (0824-72-0686) 月謝 2,000 円  
金曜日 (毎週) 午後 1 時 ~4 時 30 分
  - ・ 敷信自治センター教室 (0824-72-0571) 月謝 1,000 円  
木曜日 (第二、第四) 午後 1 時 ~4 時 30 分
  - ・ 庄原小学校前教室 (0824-72-1074) 月謝 1,000 円 (月2回)  
月曜日 ~ 水曜日 (希望する日) 午後 1 時 ~4 時 30 分
- ※詳しくはお電話ください。0824-72-1074 (夜間を希望)  
洲澤悦二 (庄原市西本町 2-11-19)

### 《情報 & 原稿を募集します!!》

- 仲間募集
- 教室 & 講座案内
- イベント情報
- あなたの大切な本の紹介
- ボランティア・ライター (現地記者) 募集!

※応募先はどら書房・赤川まで。  
掲載は無料です。

### どらくろお ホームページ

バックナンバーも掲載して  
いるので、ダウンロードして  
お楽しみいただけます。



<http://shobara.wix.com/dorakuroa>

## 西城フォトコンテスト

- ◆ 募集期間 8月1日(火) ~ 9月30日(土)
- ◆ テーマ: 「西城あるある」
- ◆ 西城の物、人、風景などの写真を撮って、どしどし応募してください。  
入賞者には西城の特産品を進呈します。
- ◆ 問い合わせ: 西城自治振興センター ☎0824-82-2175

発行: どら書房  
〒727-0012  
庄原市中本町 2-1-10  
☎090(9913)3052(赤川)  
e-mail: touzin@sannet.ne.jp  
年間購読料: 2,000円(郵送費込)

誌面デザイン: ROUTE183  
協賛: 九日市愛好会

◇前号の「みんな同じ命だから」エピソード①で、「今年の四月に庄原市役所ロビーで開催された写真展」と書きました。今年、二月の間違いでした。「虫と草木と人々」と③の通しナンバーは④の間違いです。謹んで訂正させていただきます。

◇どら書房のアマゾンでのネット販売、売れ筋の本の在庫がなくなつたのか、注文がぱたりと減少。ビジネスは難しいですね。未だにどんな本が売れるのかよくわかりません。

◇梅雨明け前からの猛暑ではや夏バテです。うちの飼っている猫は、エアコンがなくても元気です。さすがに野良猫出身、逞しいです。

### 編集後記

# 九日市だより

出店者の紹介をさせていただきます。買物&散策の参考にして下さい。  
※最終頁の出店地図に掲載していない店は、今月はお休みです。

- ◆ **すけあくろう** コーヒー、親鶏の塩焼き、自宅は音楽スナック（庄原市一木町）
- ◆ **ギャラリー三村** 古物、骨董、雑貨（広島市）
- ◆ **昭助** 焼きそば、旬の野菜（庄原市市町）
- ◆ **とらぢ** キムチ、自宅は韓国料理（庄原市高町）
- ◆ **二八そば加工所** そばカリントウ、餅他（庄原市比和町）
- ◆ **手づくり工房アーミッシュ** シフォンケーキ、椎茸他（庄原市口和町）
- ◆ **佐藤食販** にぎりちくわ、野菜天他（福山市草戸町）
- ◆ **さだっさ** 旬の野菜、実留永山の醤油他（庄原市宮内町）
- ◆ **リトルマーメイド庄原店** 九日市サンド、パン他（庄原市中本町）
- ◆ **健康企画グループ** 東城の豆腐、寿司他（三次市甲奴町）
- ◆ **柳家(ナギンチ)** 押し花アート、野菜他（庄原市三日市町）
- ◆ **ハートワークカンパニー** 染物、アフリカ民芸布他（庄原市比和町）
- ◆ **郷屋** 木工品、まな板、盆他（尾道市因島土生町）
- ◆ **なかや** 古布の小物他（広島市） ◆ **くまさん** 衣類、雑貨他（三次市畠敷町）
- ◆ **工房アム** 創作額縁、アクリル絵他（広島市南区）
- ◆ **ちくちくハウス玉手箱** 布手芸品（庄原市川西町）
- ◆ **かぐや姫** 布手芸品（広島市安佐北区） ◆ **宮川屋** 餅、麴、惣菜他（庄原市口和町）
- ◆ **やまのおみやげや** 木工品、かずら細工他（庄原市宮内町）
- ◆ **ママンドール** 手づくりドール、雑貨（三次市畠敷町）
- ◆ **ルームオブケイコ** トンボ玉、アクセサリー（庄原市口和町）
- ◆ **めだかの学校** 手芸品、野菜（三次市吉舎町）
- ◆ **花一** 盆栽、山野草他（岡山市北区） ◆ **砂田海産** 海産物、魚干物他（尾道市）
- ◆ **アパレルゴトー** 日田焼き杉下駄（福山市新市町）
- ◆ **タツミ矢** 衣類（福山市駅家町） ◆ **開盛社** 姓名判断、印鑑、表札（呉市）
- ◆ **まなべ商事** タオル、肌着、靴下他（愛媛県今治市）
- ◆ **克国水産** 魚干物他（福山市鞆町） ◆ **TSUBAME** 靴各種（福山市）
- ◆ **よりんさいコーナー** 地域包括支援センター、血圧測定、健康相談、介護相談  
（庄原市高齢福祉課、市内老人介護施設合同）
- ◆ **吉備路花田FF** 旬の果物（岡山県総社市） ◆ **山本水産** 魚干物他（島根県浜田市）
- ◆ **庄の助栄泉** 自然薯入り蒸し饅頭（庄原市板橋町）
- ◆ **くんえん工房香豚** 豚燻製他（世羅郡世羅町）
- ◆ **ハナビラタケ広島販売** ハナビラタケ、麴他（庄原市実留町）
- ◆ **阿波屋刃物** 刃物他（島根県仁多郡奥出雲町）
- ◆ **田崎屋** 骨董、雑貨（広島市南区） ◆ **前場衣料** 作業衣類他（府中市上下町）
- ◆ **佐藤園芸** 花、鉢物（岡山県都窪郡早島町）
- ◆ **久代はなみずき** 山菜おこわ、餅他（庄原市東城町）
- ◆ **お福** 着物、古布、小物他（広島市東区） ◆ **どんぐりーず** 焼き芋（庄原市東本町）
- ◆ **猫犬フリマ** 猫と犬のグッズ、衣料、雑貨（世羅郡世羅町）
- ◆ **細田漬物** 野菜各種の漬物（島根県雲南市大東町）
- ◆ **八銚自治振興区玉ネギ染め** 玉ネギ染め（スカーフ）、野菜（庄原市西城町）

・「しょうばら九日市」ホームページ出店者紹介コーナーもご覧下さい。  
・出店希望の方は、楽笑座内事務局へご連絡下さい。(0824-72-8285)

# 第199回 ひょうばらくんちいち 「庄原九日市」

平成29年

8月9日 (水) 9:00~13:00

## 「九日市」 庄原九日市とは？

天正年間（440年前）に物々交換で始まった市（いち）。  
昭和年代の戦争で途絶えていた市を、市街地活性化ボランティア活動として空き店舗などを活用し2001年に復活。

## 「九日市」 TOPICS

### ★市民ギャラリー「アート多愛夢」

→三良坂町陶芸学習合作陶展

8月8日（火）～10（木） 10時～16時

### ★どら書房

→月曜日と火曜日はお休み

### ★風龍

→九日市スペシャル！ 餃子200円！

### ★楽笑座で「うた声喫茶」開催中、まかない食堂休み

### ★『貝合わせ』を9月9日、三軒茶屋2Fにて実施。

## 「九日市」 出店配置図



1 すけあくろう

2 ギャラリー三村

3 細田漬物  
とらち  
二八そば加工所  
アーミュシュ  
さだっさ  
リトルマーメイド  
健康企画グループ

4 柳家  
郷屋

5 ちくちくはうす玉手箱  
工房アム  
かぐや姫

6 めだかの学校  
ROOM OF KEIKO

7 お休み

8 タツミ矢

9 まなべ商事

10 克國水産

11 前場衣料

12 よりんさいコーナー

13 山本水産  
くんえん工房 香豚  
ハナビラタケ広島

14 お休み

15 宮川屋  
佐藤園芸  
砂田海産  
田崎屋

16 お福

出店申込みは、【毎月20日締切】コンパネ1枚スペース1,000円～ 九日市愛好会事務局  
〒727-0013 庄原市西本町2-1-10 楽笑座内

ホームページ  
<http://www.kunchi-ichi.jp>

